

盛岡・八幡平エリアと鹿角エリアを結ぶ「十和田八幡平四季彩ライン」

JR花輪線

盛岡駅～(IGR)～好摩駅～(JR花輪線)～十和田南駅(JR花輪線)～大館駅

鉄分120%。 盛岡発着・花輪線の1日旅

今回の旅は、鉄ネタの宝庫・花輪線沿線の魅力を満喫する盛岡発着の日帰り旅。刻々と変わる岩手山の姿に、JR東日本管内でも屈指の急坂区間。さらには、東日本屈指の鉄道パークで遊び、東急青ガエルに会い、駅弁フェアで人気を博す名物駅弁を食す。まさに、鉄道ファンの聖地・花輪線の魅力を深掘りするプランです。

■コース

盛岡駅～(IGRいわて銀河鉄道)～好摩駅～(JR花輪線)～十和田南駅～(秋北バス)～小坂鉄道レールパーク～(秋北バス)～十和田南駅～(JR花輪線)～大館駅:秋田犬の里・花善:大館駅～(JR花輪線)～盛岡駅

盛岡駅6時55分発。 岩手山・八幡平を一望する展望列車

JR花輪線は好摩駅と大館駅を結ぶ全長106.9kmの路線。盛岡駅～好摩間(21.3km)はIGRいわて銀河鉄道の管轄区間ですが、実際には盛岡駅(一部盛岡駅以南)発着の直通運転となります。

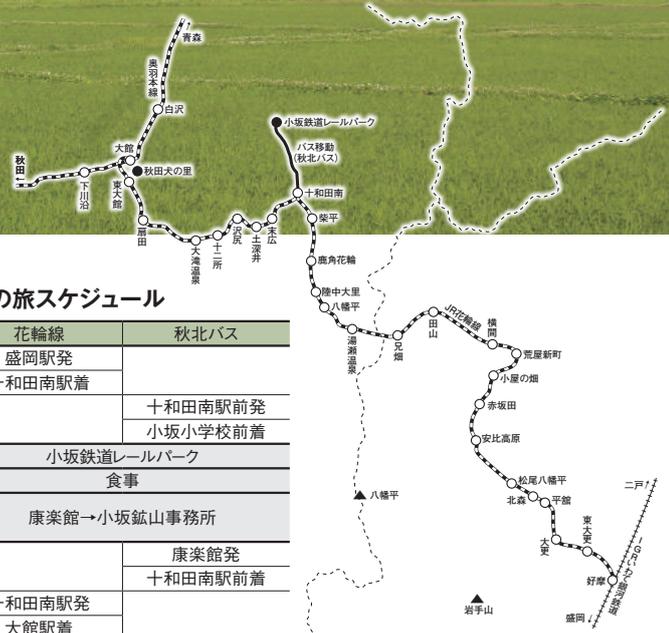
盛岡駅一番線ホームを6時55分に発車した列車は、正面に岩手山の雄姿を見ながら北上。並走する新幹線の高架橋と別れると視界が一挙に開け、左手に岩手山、右手に姫神山を望みながら進みます。好摩駅でIGR線からJR花輪線へ入ると左手に岩手山の姿が間近に迫ります。ここから大更駅、さらにその先の平館駅から松尾八幡平駅付近までは岩手山と八幡平の雄大な景色が連続。列車が進むたびに変化ある山容を楽しむことができます。



車内からもその険しさを実感できる急坂区間。線路脇に勾配標がある

■花輪線の旅スケジュール

時間	花輪線	秋北バス
6:55	盛岡駅発	
9:14	十和田南駅着	
9:31		十和田南駅前発
9:53		小坂小学校前着
10:00	小坂鉄道レールパーク	
12:00	食事	
13:00	康楽館→小坂鉱山事務所	
13:55		康楽館発
14:01		十和田南駅前着
14:24		
14:48	十和田南駅発	
15:25	大館駅着	
15:30	秋田犬の里→青ガエル→鉄道パーク→花善	
17:30		
17:35	大館駅発	
20:37	盛岡駅着	



平館駅～北森駅間。岩手山、八幡平、安比高原を一望できる



八幡平をバックに走る。平館駅～北森駅間



大更駅。このあたりから松尾八幡平駅付近まで、岩手山の変化ある山容を楽しめる



竜ヶ森のサミットを越えた松尾八幡平駅に入線するキハ100系

JR東日本管内屈指の急勾配区間

松尾八幡平駅～安比高原駅～赤坂田駅区間は、花輪線最大の急こう配区間。1,000m進むと33.3m高くなる33.3% (パーミル)と、JR東日本管内でも屈指の急坂が連続します。昭和40年代頃までは8620型SLの3重列車が運転。鉄道ファンには馴染みのスポットでした。車窓からもその斜度がわかるほど。列車での峠越えを実感できます。トンネルを越え安比高原駅を過ぎると一気に下りに。エンジン音も軽やかに北上します。

今も現役。荒屋新町駅の扇形機関庫・転車台

荒屋新町駅ホーム北側にあるのが「旧盛岡機関区荒屋新町支区扇形機関庫・転車台」です。先に紹介した急こう配区間を走るSL基地の名残で、当時14両ほどのSL、98名の職員が所属していたとのこと。現在も夜間に行われる保守車両の基地として活躍中。全国でも珍しい現役の扇形機関庫・転車台のひとつです。横間駅と田山駅間のトンネルを過ぎると分水嶺、兄畑駅の先で県境を越え秋田県に入ります。

車窓の湯瀬渓谷を楽しみながら列車は八幡平駅へ。この辺から田園風景に変わります。列車は鹿角地区の拠点駅・鹿角花輪駅を経て十和田南駅へ。ここから列車は進行方向が前後逆になります。かつて考案されるも、実現できなかった延伸計画の名残りとされています。



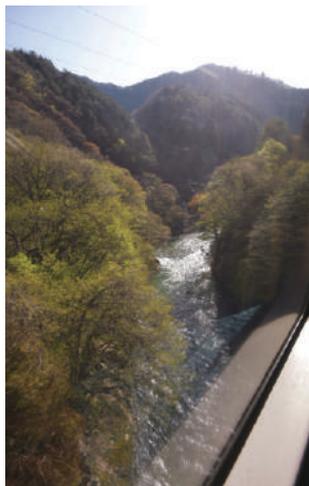
「旧盛岡機関区荒屋新町支区扇形機関庫・転車台」とホームにある案内板



荒屋新町駅での列車交換風景



兄畑駅～湯瀬温泉駅間が県境。並走する国道282号の案内板が一瞬見える



車内から米代川の源流部となる「湯瀬渓谷」を望む



その名もズバリ「八幡平駅」。ひっそりたずむ無人駅だ



十和田南駅。ここで進行方向が逆になる



ホームの先で線路は行き止まりとなる



十和田南駅で見つけた風景。真ん中の凹部分に駅員が立ち、改札、集札業務を行っていた



小坂鉄道レールパーク駅舎とブルートレインあけぼの



スロネ24-551。A寝台個室



機関車庫。全面塗装されたDD132がまぶしく光る



写真の「観光トロッコ」のほか「レールバイク」の体験もできる



入場券は昔懐かしい硬券

十和田南駅で下車。小坂鉄道レールパークへGO!

今回の旅はここ十和田南駅で一度下車。バス(秋北バス)に乗り換え、東日本屈指の鉄道テーマパーク「小坂鉄道レールパーク」を目指します。「小坂鉄道レールパーク」は、かつて大館駅と小坂鉱山を結んでいた旧小坂鉄道の駅舎、施設を活用した施設。当時活躍していた機関車等が動態保存されており、レールを走るレールバイクなど楽しい体験メニューも人気。上野～秋田・青森方面を結び親しまれた寝台特急「あけぼの」24系客車を活用した宿泊施設「ブルートレインあけぼの」が、今年春リニューアル。新車輻のような輝きを放つ車両で、寝台列車の旅気分を満喫できます。

小坂町は古くから鉱山で栄えた町。近くには、その栄華を今に伝える明治43年築の木造芝居小屋「康楽館」、ルネサンス調の外観が印象的な「小坂鉱山事務所」などの歴史的建造物があります。町内には採掘された鉱石をイメージした「黒鉱カレー」を提供するレストランや、カツ丼のカツとラーメンが一緒になった小坂町のソウルフード「こさかまちかつら〜めん」を提供する飲食店があり、お好みの一食をランチに。小坂産ワインも見逃せません。



40年以上前から地域で親しまれている小坂町のソウルフード「こさかまちかつら〜めん」



制服姿でお出迎え。まさにレール遊びの複合施設



国重要文化財にも指定される康楽館

再び花輪線で大館へ。大館駅前遊ぶ

食事が済んだら往路と逆ルートで十和田南駅へ。14時48分発の列車で大館を目指します。米代川沿いに進む花輪線。岩手側同様、緑あふれる車窓ですが、こちらは里山と森、水田と集落の組み合わせ。車窓の趣が異なります。東大館駅を過ぎ、奥羽本線をまたぐ鉄橋を渡ると終点・大館駅です。

令和5(2023)年10月29日に新駅舎の使用が開始された大館駅を出ると、まず目に入るのが秋田犬の銅像。そう、ここ大館は「秋田犬」の故郷。渋谷駅のシンボル「忠犬ハチ公像」のモデルとなった「忠犬ハチ公」も大館市生まれということもあり、駅前にはゆかりの地ならではの施設があります。



新しくなった大館駅と、駅前にある「秋田犬の像」

「忠犬ハチ公」の縁であの車両がここに

まず訪ねたのが大館市観光交流施設「秋田犬の里」。その外観は、大館市生まれの「忠犬ハチ公」が飼い主を待ち続けた大正時代の渋谷駅がモデル。入口では、大館駅を真っ直ぐ見つめるハチ公像がお出迎え。館内では、秋田犬の特徴や歴史について楽しく勉強できる秋田犬ミュージアムや、カワイイ秋田犬を見ることができる秋田犬展示室、さらには、秋田犬グッズや大館名物を買えるお土産コーナーなどがあります。

「秋田犬の里」の芝生広場に展示されているのが東急デハ5000系。通称「青ガエル」。現役引退後は、平成18(2006)年から渋谷駅ハチ公口前で観光案内所として使用され「忠犬ハチ公像」とともに渋谷駅のシンボルとして親しまれていましたが、渋谷駅周辺の再開発に伴い、令和2(2020)年にこの地へ。敷地内には旧小坂鉄道の線路を活用した「鉄道パーク」もあり、土日祝日には全長300mの「手こぎトロッコ」体験(200円)もできます。



「忠犬ハチ公」が通った大正時代の渋谷駅をイメージした「秋田犬の里」



秋田犬ミュージアム、本物の秋田犬が見学できる秋田犬展示室などがある



芝生広場にて展示・公開されている「青ガエル」



「陸奥」くんのSNS



秋田犬展示室で出会った「陸奥」くん。男の子、一歳、体重は31kg

花善の「鶏めし」を購入。盛岡へ。盛岡着 20:37

花輪線の旅のクライマックスは、大館が誇る駅弁「鶏めし弁当980円」。駅弁味の陣「駅弁大將軍」(総合評価第1位)を史上初となる3度受賞。全国のデパートなどで開催される駅弁フェアでは、常にトップクラスの人気を誇る駅弁界のレジェンドです。その製造元が大館駅前にある「株式会社花善」。売店(6時30分~19時/無休)では、併設する製造工場で作った「鶏めし弁当」を販売。まさに駅弁の聖地で購入する「鶏めし」は一味違う(ような気がします)。車両の窓際に弁当とお酒を並べるだけで、日常の風景が旅風景に一変。「鶏めし」をほおぼりながら、鉄づくしの花輪線の旅をしめくるというのもオツ。ちなみに「株式会社花善」の店舗には、「鶏めし」のアレンジメニューも楽しめる食事処(10時~14時30分)、製造工程の見学、歴代掛け紙、駅立ち売り当時のアイテムなどを展示するギャラリー&お土産処(10時~15時)もありますよ。



「秋田犬の里」内には、観光案内所、土産コーナーもある



小坂鉄道の施設跡を利用した「鉄道パーク」

100系のシートは旅心をくすぐるボックス席タイプがメイン(車両により異なります)



大館駅から徒歩1分。花善の店舗。食事処、売店、ギャラリーなどもある

駅弁界のレジェンド。大館駅構内でも販売しているが、せっかくなら本店売店で購入したい

いわてホリデーパス

土・休日(他特定期間もあり)の1日間、フリーエリア内の普通列車(快速を含む)の普通車自由席、BRT(盛岡~気仙沼~柳津)及び東日本交通バス(茂市~岩泉病院間)が乗り降り自由。

【発売期間】通年
【有効期間】1日
【料金】大人2,500円、小人1,250円
【利用期間】土・休日(4/29~5/5、7/20~8/31、12/23~1/7は毎日可)
【発売箇所】フリーエリア内の主な駅の指定席売機、みどりの窓口、駅たびコンシェルジュ及び主な旅行会社

いわてフリーエリア

